



国民の森林・国有林

中部森林管理局

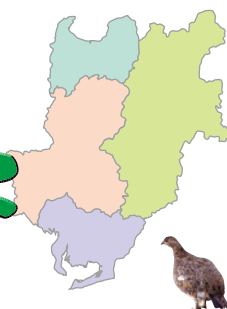
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



式年遷宮御用材伐採式(H17)会場で、三ツ緒伐りについて聞く子どもたち(東濃署)

主な項目	○ 夏休み!子どもふれあいデー	P 2
	○ 各地からのたより	P 4
	○ 寄稿「森林鉄道の里づくりを目ざして」	P 8
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P 10



【企画調整課】 七月三十一日、中部森林管理局において地域の子どもたちを対象に、国有林の役割をはじめ、森林管理局の仕事や、森林・林業・自然の大切さ等を知ってもらうことを目的とした「夏休みー子どもふれあいデー」を開催しました。

今年で二回目の開催となりましたが、近隣の小学生を中心に昨年を超える六一七名の方が来局されました。

今年は、昨年実施した「丸太切りに挑戦だー」、「マイ箸づくり」、「森の素材でネイチャークラフト」、「金属探知機で



局内でのイベントの様子



囲いワナ付近でカードを見つけた子どもたち

宝さがし!」に加え、新たに「ジェットシューターで山火事を消して!」、庁舎内をスタンプリヤーをする「森林管理局クエスト」を企画し実施しました。

「丸太切り」、「木工クラフト」や「マイ箸」づくりは不動の人気を博し、皆さん熱心に製作に取り組んでいました。

「金属探知機による宝さがし」は、箱の中に隠れたボールペンを探知機で探すイベントですが、機器の感知能力に感嘆の声を上げていました。

山火事消火用のジェットシューターのコーナーでは、炎に模した的当てを行い、的が倒れると喜びの声を上げていました。

「森林管理局クエスト」では、担当者がルールを説明すると、皆、真剣な眼差しで聞き入り、ルールどおり、スタンプと森林・林業の問題解決のヒントが書かれたカードを集め、カードを手掛かりにイベント最後のクイズに挑戦していました。

また、昨年幼児などに好評であった「ビノキ玉プール」に加えて「カンナ屑プール」、「アースブロック(カラマツ繊維を使用したブロック)」のコーナーを設置し、常時大人気でした。

中庭では、ニホンジカ被害木や囲いワナを展示し、子どもたちは本物そっくりのシカのデコイに驚いていました。

このほか、くじ引きによる参加者限定のベビーイスの製作もあり、「運と実力」を試す楽しいコーナーとなりました。

参加者からは、「去年も楽しかったけど、今年もすごく楽しかった。」「とても楽しかったです、来年も開催してください。」「森林管理局がどのような組織でどのように活動をされているのかよくわかりました。参加して満足です。」等の感想が寄せられ、国有林はもとより、山の楽しさ・森林の大切さ・木の良さ等をPRできた有意義な一日でした。

今年は、国民の祝日「山の日」と「信州山の日」制定記念の関連イベントとして開催し、長野県・日本郵便(株)信越支社・酒井産業(株)様にご協力いただきました。この紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

国と県が更に連携を密に!

平成二十六年度

岐阜県・愛知県林政連絡会議

【名古屋事務所】 七月二十八日、岐阜県庁において、平成二十六年度岐阜県・愛

知県林政連絡会議が開催されました。

冒頭、中部森林管理局山元次長及び岐阜県林政部高井次長、愛知県園原森林保全課長から、開催にあたっての挨拶があり、その後、中部局、岐阜県及び愛知県から今年度の事業概要等について説明がありました。



挨拶を行う山元次長

また、国有林からは、主伐・再造林、植栽計画、木材の生産販売、ニホンジカ被害対策、温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組、森林共同施業団地等について、岐阜県からは、合板工場、木質バイオマス発電施設及び大型製材工場の整備、林業事業体育成等について、愛知県からは、森林環境税の取組、林業事業体育成、愛知県におけるバイオマス発電所に関する情報等について報告があり、意見交換が行われました。



会議の様子

平成二十三年から始まった当連絡会議ですが、各種事業等の連携も相まって年を追う毎に国と県の距離感は確実に近くなってきたと感じています。今後も更に連携を密にしていくことを確認することができた会議となりました。

建築士会等と国有林現場視察会

木材利用促進と山下・川上の連携強化

「名古屋事務所」八月六日、飛騨森林管理署管内の高山市マツ谷国有林外において、愛知県木材組合連合会、愛知県建築士会及び中部地方整備局の方々を対象として、国有林現場視察会を開催しました。

この視察会は、「愛知県は木材の流通・加工の一大拠点にも関わらず、木材

関係者は実際の山の状況や現場を知らない人も多いんじゃないのか。」との木材組合関係者の声があったことから、昨年度、愛知森林管理事務所管内の段戸国有林で初めて開催し、今回が二回目となります。



伐木・造材等の作業現場の様子

今回は、木材の流通・加工を担う木材組合の会員三五名の外、木材利用促進の面からは実際に建物の設計・施工を担当する方々の理解と協力が必要との観点から、愛知県内で設計・施工を行う愛知建築士会、国土交通省中部地方整備局の皆様に、名古屋事務所職員を含め六八名の参加を得て実施しました。

当日は、時折雨が降る天候でしたが、田尻飛騨署長や署担当者からチェーンソー・スイングヤーダ・プロセッサ・フォワーダによる伐木・集造材システムの作業状況や低コスト・高効率作業への取組について説明を行いました。

参加者は、普段なじみの無いチェーンソーによる立木の伐採、スイングヤーダによる集材、プロセッサによる造材などを、デジタルカメラやスマートフォンで撮影しながら興味深く視察し、一つの作業が終わると拍手も起こるなど、進化した機械化林業に感嘆の声が上がっていました。



山土場で説明を聞く皆さん

参加者からは、「この機械はいくらするののか。」「傾斜何度まで登坂できるののか。」「二日の作業時間は。」「伐採は全てチェーンソーか。一日何本位伐るのか。」等の質問のほか、建築士の方や中部整備局の方々からは「木材利用について相談したり、智慧を借りたい。」「木材利用の関係で緊密に連携していきたい。」などの声もありました。

このほか、中間土場の活用状況、オークヴィレッジでは加工から建築まで国産材を使った手作り・こだわりの住宅建設や木工家具作りなど、生産から消費までの一連の工程について見学を行いました。

また、参加者のほとんどは、国有林や実際の森林・林業については馴染みがないことから、国有林の概要、公共建築物等木材利用促進法、木材利用ポイント、山の日制定記念分収造林などについても説明したり、DVDの視聴なども交えながら、理解を深めてもらいました。

参加者からは、「いいものを見せてもらった。」「また、こうした機会を作って欲しい。」「もっと、川上のことを教えて欲しい。」など、川上への関心の強さが聞かれました。

今後も木材の一大集積地・消費地にある名古屋事務所として、多くの川下の方々とのつながりを深め、川下と川上の連携強化を図り、木材の利用促進に向けて取り組んでいきたいと考えています。

各地からのたより

上高地「あがりこサワラ」

説明看板設置

【中信署】日本有数の山岳景勝地である上高地、現在ここを訪れる多くの観光客はJR松本駅からバスに乗り換えて梓川沿いに国道一五八号線で島々(しましま)沢渡(さわんど)中ノ湯と進み、釜トンネルを抜けて上高地へ入ります。他にも、いくつかの登山道が北アルプスを越えて上高地へ至りますが、その中でも最も古くから上高地へ続く登山道が島々谷から徳本峠(とくごうとうげ)を越えて上高地に至る二〇^{キロメートル}に及ぶ信濃路自然歩道です。

以前、風景紀行九十「古道島々明神線」でも紹介しましたが、島々谷



上高地へ続く登山道と「あがりこサワラ」の説明看板



奇怪な樹形の「あがりこサワラ」

「岩魚留(いわなどめ)」「徳本峠へと続き白沢沿いに上高地の明神池付近へ至るこの道は、江戸時代には松本藩の御用柚(ごようすま)によって上高地内のヒノキ・サワラなどを伐採搬出するため頻繁に利用されるようになりました。近代以降になると日本近代登山の祖として知られるイギリス人宣教師W・ウェストンや小説家の芥川龍之介などがこの道から上高地へ入ったとして多くの人に知られることとなりました。現在でも、趣のある古道として山岳愛好家や地元小学生の登山行事に利用されるなど多くの人に親しまれています。

さて、この信濃路自然歩道を島々側から歩いて一時間三十分ほどすると、「あ

がりこサワラ」と呼ばれる奇怪な樹形のサワラがひととき目につきます。「あがりこ」というのは、もともと東北地方の方言で、地上二、三メートル付近で多くの枝を分岐させたブナの樹型を指し、新潟県北部から山形県にかけてのブナ二次林に見られます。薪として利用するためにまだ雪の残る時期に伐採し、そこから萌芽した幹を繰り返し伐ることによって形成されると言われています。中信森林管理署管内では、松川村の馬羅尾(ばらお)国有林内にあがりこサワラの群落があり、「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」として保護されています。馬羅尾国有林のあがりこサワラ群落には現在一、二本のサワラがあり、八〇～一〇〇年前に伐採施業の利用ピークがあったと推定されていますが、信濃路自然歩道のあがりこサワラは本数も少なく、いつどのようにして現在のようになかたが形成されたのかは分かっていません。

中信署では、このあがりこサワラを多くの登山客に知ってもらうため、平成二十六年六月に説明看板を設置しました。

時代ごとにその用途を変えてきた信濃路自然歩道は、今なお上高地へ至る古道として多くの人に親しまれています。あがりこサワラがつくる林内の様相は、この道を歩く人に古くから続く上高地の森林と人とのつながりを感じさせてくれます。

「飛騨白山白川郷自然休養林」で 施設整備の支援活動

【飛騨署】七月二十四日、一般社団法人名古屋林業土木協会荘川支部の会員九名が、飛騨白山白川郷自然休養林において施設整備の支援活動を行いました。この活動は、同協会荘川支部の社会貢献活動の一環として平成二十年から毎年行っているもので、今回で七回目となります。

平成二十四年には、自然休養林保護管理協議会と同協会の間で、オフィシャル・サポーター制度に基づいて『白山白川自然休養林「白水の森」整備等に関する支援協定書」が結ばれています。

また、本自然休養林については、地域からの「地元に着目し愛される名称に変更を」との要望を受け、本年四月に「白山白川」から「飛騨白山白川郷」に改めたところだ。



「飛騨白山白川郷自然休養林」 標柱建込み作業

今回の施設整備は、例年実施している遊歩道・駐車場の草刈り、遊歩道周辺の枯損木処理、危険区域への立入禁止措置（グリーンロープ張り）に加え、木製標柱の建込み作業を行いました。

自然休養林の活性化に取り組みたいとする地元活動の気運の高まりを受け、飛騨署として、新たな名称による施設の整備を図るため、木製標柱（太さ四〇センチ、長さ四メートル）三本を準備しました。この標柱の建込みを、同協会荘川支部の方々に行っていただきました。



作業に参加された皆さん(前列中央 田尻署長)

当日は、時々激しい雨に見舞われる生憎の天気となりましたが、草刈りでは、お互いに声を掛け合い安全に作業を進めました。木製標柱の建込みについては、トラッククレーンやミニバックホーなど

を使って手際よく進め、予定した作業を全て終えることが出来ました。

夏休みに入り、自然休養林はキャンプや登山を楽しむ方々で賑わいます。地元支援活動によって自然環境の保全や安全で快適な利用が確保されています。自然休養林の活性化に向けて関係者が一丸となって取り組みたいという地元の熱意が感じられました。

「岩村城跡」の清掃作業

【東濃署】七月二十六日、女城主の里として名高い恵那市岩村町にある「岩村城跡」の清掃作業が行われ、地域の各種団体（商工会岩村支部、消防団岩村分団等）、岩田中学校と恵那特別支援学校高等部の生徒、市職員など約二五〇名が参加しました。これは地域の方々が毎年行っている行事で、今年は岩村森林官が



清掃作業の様子

らの呼びかけで、東濃署からも署職員、治山事業所主任、森林官、森林技術員が初めて参加しました。

壮大な石垣を誇る「岩村城跡」は、標高七七一メートルの城山の山頂一帯に大規模な城郭を構え、日本三大山城（他に備中松山城、大和高取城）の一つにあげられています。また、平成十八年には、戦国の山城遺構がよくのこる優れた城跡であることなどから岐阜県から岐阜城と並んで「日本一〇〇名城」に選定されています。

城跡を囲むように所在する岩村国国有林は市街地からの眺望も良く、平成五年に地域のシンボルとして貴重な自然環境、優れた森林をまもり、併せて地域の振興に資することを目的として「いわむら郷土の森」（四七・八六畝）を設定し、その保全に努めているところです。

夏の行楽シーズンへ向け気持ちよくお客様をお迎えするため、三十五度を超える猛暑の中で草刈りなどが行われ、熱中症にならないよう浴びるように水分補給を取りながらのとても大変な作業でした。

作業終了後は、市職員が講師となって「お城についてのミニ勉強会」が開催され、子どもたちは地域の貴重な財産について学びました。郷土の森を管理している東濃森林管理署についても紹介され、国国有林の役割などを知っていただく機会となりました。

また、行事終了後、「いわむら郷土の



挨拶を行う間島署長

森」連絡協議会のメンバーと現地での意見交換を行い、「大変な作業に参加いただき有り難うございました。」と声をかけていただきました。これからも、地元と共同して、地域が大切になっている自然環境などの保全に努めていきたいと考えています。

旧帝室林野局木曾支庁を

復元・公開

【木曾署】木曾町では、平成二十二年に旧森林技術第一センター庁舎及び敷地を中部森林管理局から買い受け、昭和二年当時の状態に復元する工事を進めていましたが、この度、工事が終了し、七月十九日に復元された旧庁舎の開館式が開催されました。